

# 東京言語研究所

## 2012年度第2回公開講座

東京言語研究所では、広い視野からことばを考えることを主な目的として、公開講座を開催することにいたしました。ことばとかかわりを持つさまざまな分野の第一線で活躍する方々を講師としてお迎えします。

今回は、下記の要領で2012年度第2回公開講座を開催いたします。奮ってご参加ください。

〈演題〉文理解の心理言語学：人間が文を理解するしくみにはどんな不思議があるのか

〈講師〉広瀬 友紀 氏（東京大学総合文化研究科准教授）

〈日時〉2012年10月27日（土） 14:00～17:00

〈会場〉東京言語研究所（新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階）

〈参加費〉一般 1,500 円 学生 1,000 円（当日学生証提示）

（\*2012年度理論言語学講座受講生は500円）

〈申込み〉Eメール([info@tokyo-gengo.gr.jp](mailto:info@tokyo-gengo.gr.jp)) またはFAXで下記をご連絡下さい。定数：60名

①公開講座受講希望 ②氏名 ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス

⑥区分(2012年度理論言語学講座受講生 ・ 一般 ・ 学生)

(この情報は受講手続きにのみ使用いたします。)

〈講師紹介〉

大阪府出身。同志社大学文学部卒業、ニューヨーク市立大学にて Ph.D. in Linguistics 取得。電気通信大学助教授を経て、現在東京大学総合文化研究科准教授。人間による言語処理のしくみを研究対象としている。最近の主な論文(共著含む)は "Appeals to prosody in Japanese Wh-interrogatives—Speakers' versus listeners' strategies". *Lingua*, 122 (6)、「文処理研究と日本語」『日本語学』第30巻14号、「Where do illusory vowels come from?」*Journal of Memory and Language*, 64、「Processing of relative clauses in Japanese: Coping with multiple ambiguities」Nakayama, Mazuka, Shirai and Li (eds) *Handbook on East Asian Psycholinguistics*. Cambridge University Press、「話者の意図と聞き手の理解」『認知科学』第13巻3号 ほか。

問合せ先

東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420

FAX:03-5324-3427 ホームページ: <http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

## 【講義要旨】

人間が、頭の中に格納されている言語知識をどのように「運用」して、読んだり聞いたりする文を理解するのか、その時、言語知識以外にどのような情報が、どのような形で使われるのか。人間が無意識でいられるくらい素早くスムーズに文の背後の文法構造を割り出す作業を担うその装置とはどういったものか。本講座ではこうした問いを扱います。

まず、「文理解の心理言語学」という分野について知っていただくため、英語を中心にどのような研究が早くから進んでいたか、そこではどのような問題提議がなされどのような前提が基礎となっていたかを紹介します。例えば、統語論の教科書で必ず出てくる次のような例文があります。

The boy saw a man with a telescope.

この文が実はふたつの意味を持ちうるのは、その背後に複数の文構造があるからだという事実を指摘できるのが統語論の知見の一つであるなら、じゃあこれを読んだ母語話者の理解が実際は特定の解釈に偏りがちなのはなぜなのか、人間はどうしてそちらを選びがちにできているのか、という問いをつきつめるのが「心理言語学」です。

さらに、英語の例と比較して、私たちの話す日本語が、なぜ人間の文理解を考えるとことさら重要な役割を果たしているかを考えます。考えてみれば、日本語は、文の展開を予測するのに必要な情報がいつも最初でなく後の方に来ます。例えば、下のような文を、左から順番に理解していく過程を考えてみてください。

アンパンマンはバイキンマンにドキンちゃんが見せびらかしていた手紙をそっと渡した。

アンパンマンが食パンマンにドキンちゃんを紹介したジャムおじさんを会わせた。

文を読む過程で私たちはその構造や意味を逐次予測しながら次に進みますが、その際に動詞をはじめとする「主要部」から得られるはずの情報が間に合わず、後からその予測が頻繁に裏切られることがわかると思います。日本語母語話者である私たちはその不便をあえて意識することは少ないと思いますが、仮に自分が日本語を外国語として学習する立場だと想像してみると、日本語話者が日常スムーズにコミュニケーションを行っているという事実は、意外に説明が難しいことがわかんと思います。

続けて、ここまでお話したことに関連のある、最近の研究結果やその手法についてもいくつかご紹介する予定です。